

English Garden 第27話

"Under the Greenwood Tree" William Shakespeare

「緑なす森の木陰に」 ウィリアム・シェイクスピア

前回と同じ "As You Like It" 「お気に召すまま」の第II幕第5場で歌われる歌の最初の行です。小説「テス」などで有名なヴィクトリア朝の小説家トーマス・ハーディ(1840～1928)の小説にも同じ題名の牧歌調豊かな作品がありますが、それはここらとったものです。この歌の第1節をご紹介します。

| | |
|--|-------------------|
| Under the greenwood tree | 緑なす森の木陰に |
| Who loves to lie with me, | みんなして寝ころがって、 |
| And turn his merry note | 歌おうよ愉快的な歌を、 |
| Unto the sweet bird's throat | 鳥たちと声を合わせて。 |
| Come hither, come hither, come hither! | おいでみんな、みんなここへおいで。 |
| Here shall he see | 悪い奴は |
| No enemy | 誰もいない。 |
| But winter and rough weather. | 冬と北風のほかに。 (木下順二訳) |

アーデンの森の中でいにしへのロビンフッドさながらに暮らす公爵は、世間の喧騒を離れて平和な生活を送っています。公爵にとって質素な森の生活は「あくどく塗り立てた栄華の日々よりもはるかに楽しく、悪意のはびこる宮廷よりずっと安全」なのです。しかも、唯一の「敵」である冬の冷たい風さえ、廷臣たちの追従とは違って、在るがままの自分を痛切に思い知らせてくれる、ありがたい諫めとなります。そして公爵は自然のあらゆるものから究極の教えを読み取るのです。

This our life exempt from public haunt
Finds tongues in trees, books in the running brooks,
Sermons in the stones and good in everything.
この我らの日々は俗塵を遠く離れて、
木々に言葉を聞き、せせらぎに書物を見出し、
石に神の教えを読み取り、あらゆるものに善を感じる。

劇は、大詰めで不義を働いた弟が改心して公爵に王位を返すことを約束、また3組の若い男女がめでたく結ばれます。シェイクスピアの劇の中でも明るく、人気の高い喜劇です。

